

## ベンチャー講座 in 埼玉大学 『ベンチャーを巡る諸問題』

獨協大学経済学部  
上坂卓郎



## 福澤 諭吉にみる明治のベンチャー精神・・・「福翁自伝」より

- 諭吉は起業家精神溢れた日本人だった
- 学問をするために、その前提として才覚（アイデア）とお金が必要だった
- 金が目的ではないがその重要性を意識。経済の理屈には関心があるが実務は慎重。自ら武士として商売不得手を嘆きつつ、こころ一番では挑戦した

## 福澤 諭吉の「学者商売」

- ①出版事業・・・「一大投機」
  - 江戸時代からの書林の横暴
  - 自分で千両で大量の紙を仕入れ、職人を支配し出版経営の仕組みを変える
- ②学校経営・・・環境のよい土地を東京中さがして、政府と交渉
  - 日本で初めて月謝制を導入。私立学校のモデルを確立
  - 「高燥平面で空気清く眺望佳し」の土地を購入・・・三田（島原藩）

## 福澤 諭吉の生き方

- 「時節をみる力」・・・海外を見聞し、新しい日本の社会がどのようになるべきか見通す
- 「偉ぶらない」・・・官におもねらず、下に威張らず。権威に媚びる民衆の態度を批判
- 「理屈を通す」・・・合理主義  
外国為替レート

## YAHOO! と Google

- ネット市場支配とそれに挑戦する風土
- 似ているところ・・・
  - ①スタンフォードの大学院の学生2人組み。コンピュータサイエンスの専門家
  - ②著名なVCが投資・・・セコイヤキャピタル
- 違うところ・・・  
起業家が経営に関与。  
ビジネスモデル（総合ポータルサイトと検索専門サイト）

## YAHOO!



- 1994年 ジェリー ヤンとデビッド ファイロが情報検索サービスを開始。T. クーグルがCEOに
- 1996年 株式公開
- 2002年 検索エンジンのインクミ買収
- 2003年 検索広告のオーバーチュア買収
- 2005年 マイクロソフトとIMで提携
- 2006年 イーベイと広告・決済で提携
- 2007年 J. ヤンがCEO就任



- 1998年 ラリー ページとサーゲイ ブリンが立上げ
- 2000年 Yahoo!が採用  
検索連動広告グーグルアドワーズ開始
- 2001年 E.シュミットがCEOに就任
- 2000年 Toolbarを発表
- 2002年 Google News開始
- 2004年 株式公開

## イノベーションを生み出す風土

- Yahoo!が存在するのに、Googleが何故生まれてきたのか？
- 市場を支配するものに挑戦していく、駄目と思われるもの、人が見放したものに挑戦していく者が出る社会と出ない社会
- わが国・・・「長い物には巻かれよ」、「お上に盾を突くな」「天に唾するな」
- 人生観の違い・・・若くして成功し引退し好きなことをやるか、一生仕事を続けるか

## イノベーションとは

- シュンペータの定義
- 日本の場合
- 経済産業省の目利き、政府資金の投入
- 経済産業省の「日の丸」検索エンジンプロジェクト(情報大航海プロジェクト)・・・今年度46億円の予算

## 最近の日本のベンチャー企業

- ライブドアショック以降新興市場は低パフォーマンス、冷え込みが継続
- 本年の上場数減少と小規模化傾向
- 業種としては、ネット系から従来業種へ
- 最近のトピックスは、上場審査の厳格化
  - ①業績予想のプレをなくす
  - ②ガバナンスの確立

## 大学発ベンチャー企業

- 数はできたが、質は・・・？
- 企業も大学も横並び競争
- 会社としての基本が確立できていない？
  - ①専門経営者がいない
  - ②知的財産権の移転は出来ているのか
  - ③出資金と補助金の違いがわからない

## ベンチャーキャピタル産業の課題

- 大手の証券系VC(Venture Capital)に集中化傾向が出ている
- 銀行系VCは銀行本体とシナジー効果を狙う
- その他独立系は小規模で、資金の出し手が制限されている
- 米国のような専門機関にならず、証券・銀行の関連会社に止まる

## 何を变えていけばよいのか？

- リスクに耐えて夢を追求する少数の若い革新者が出る雰囲気づくりに尽きる  
困難な課題に果敢に挑戦する
- 出来ないもの、リスクを面白がる
- お金に対する見方・考え方を変える

## まとめ 1/2

- ①福沢諭吉の生きた明治の時代
- 社会システムや物の価値が激変した
  - 身分差がなくなり、新体制で誰もが自分の生き方を模索した
  - 才覚次第で社会的地位と金を得ることが出来るようになり、それが強く意識された
  - 新政府の絶大な権力、官が勝ち組…多くの人が役人をめざした「仕官流行熱」

## まとめ 2/2

- ②現代…グローバルな競争
- 成熟経済、少子高齢化社会…低生産性の時代、危機感なし
  - 官監視下の日本型競争は通じない…中国・韓国
  - 日本の多くの人々が起業家精神(アントレプレナーシップ)を持ち、才覚を働かせることが重要